

第3章

分析シート (個人用・学校用)の活用

令和4年度に開発した分析シートとその
活用のポイントについて掲載しています。



とっとり学力・学習状況調査分析シートの活用方法について

分析シート紹介

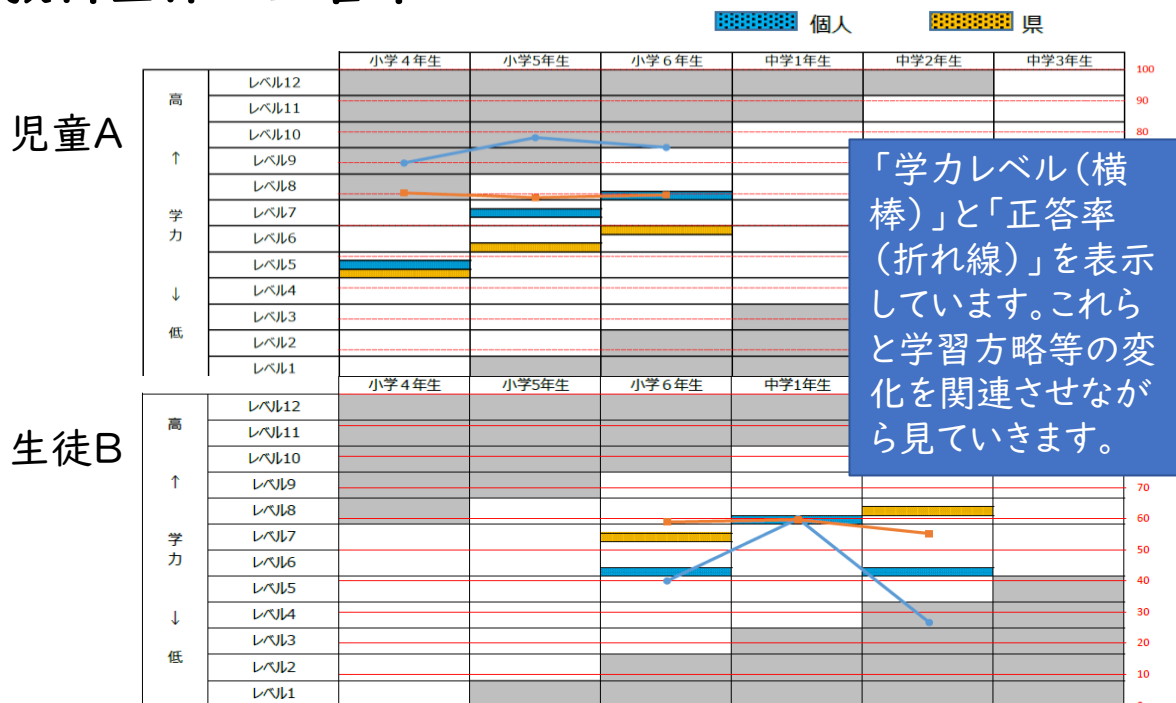
とっとり学力・学習状況調査でわかること	個人用	学校用1 (10年間分)	学校用2 (3年間分)	学校用3
・学力レベル ・主体的・対話的で深い学びの実施 ・学習方略 ・非認知能力	○	○	○	—
・鳥取県において学力が上位10%・25%、下位10%・25%の割合 ・4層それぞれにおいて、伸びた生徒の割合 ・学力を伸ばした生徒の割合 ・学力の伸び率	—	○	○	—
・自己効力感 ・学力値と学力の伸び	—	—	—	○

Ⅰ 分析シート(個人用)について

分析シート(個人用)の特徴

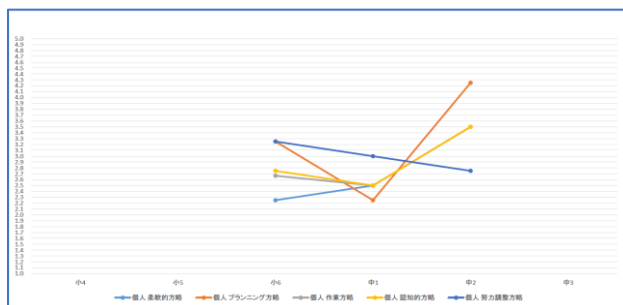
- 児童生徒一人一人の学力レベルや非認知能力・学習方略の数値の経年変化をグラフ等で見える化。
- 6年間分の個人の変化を示すことが可能。

教科全体 正答率

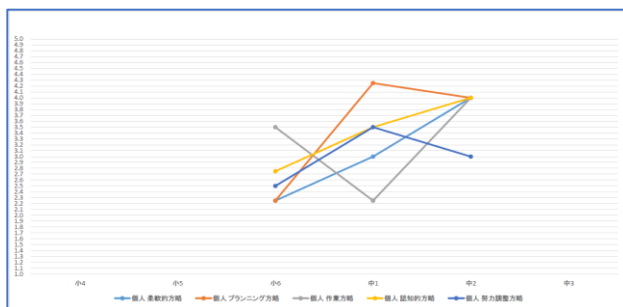


学習方略・非認知能力

児童A



生徒B



学習方略、非認知能力について、経年での変化がわかるように折れ線グラフで示しています。今年度の数値とともに今までの推移を確認することができます。

分析シート（個人用）の活用

- (例1) 【帳票40】を確認後、気になる児童生徒の補助資料として実態把握に役立てる。
- (例2) 全員分を確認をして、下降傾向にある学習方略等の項目を個人の重点課題として焦点化し、個別の指導・支援に生かす。

2 分析シート(学校用1、2)について

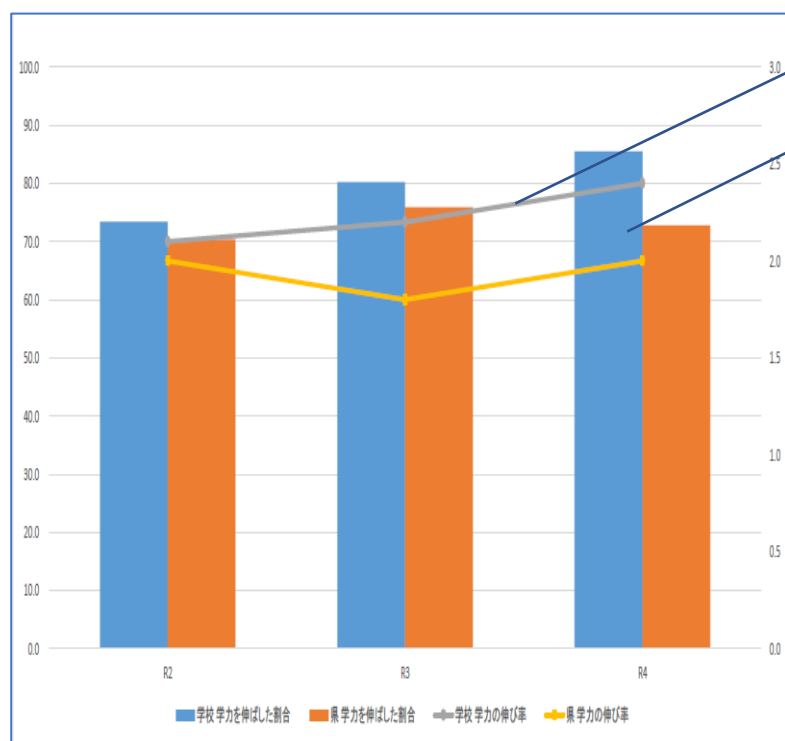
分析シート(学校用1)の特徴

- 学年の経年変化が見える化。学校の同じ学年の傾向を見取ることが可能。
- 10年分のデータを蓄積し、表示。

分析シート(学校用2)の特徴

- 同一集団の経年変化が見える化。同一集団の学力レベルや非認知能力、学習方略の数値の経年変化を見取ることが可能。
- 3年分のデータを蓄積し、表示。

学力分析(伸ばした児童生徒の割合)



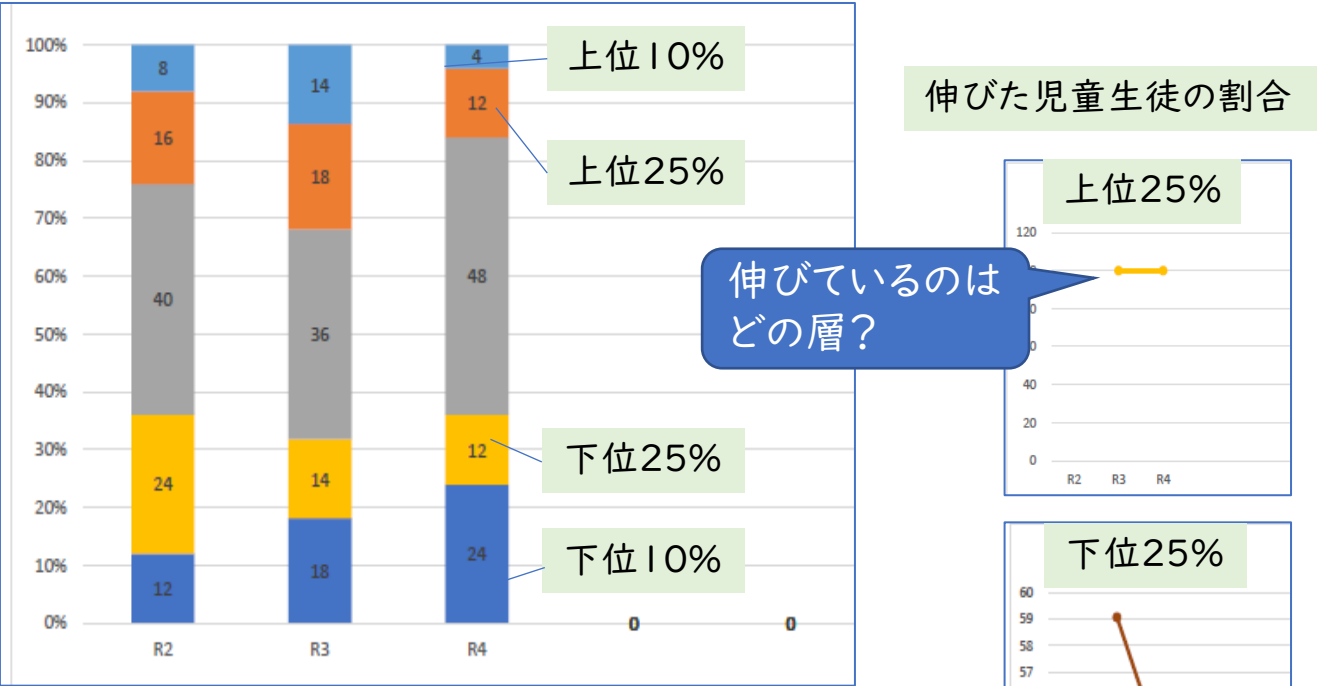
「伸び率」

「伸ばした児童生徒の割合」

教科ごとに、学力レベルを1つでも伸ばした児童生徒の割合と学力の伸び率(伸ばしたレベル)について棒グラフと折れ線グラフで表示しています。

学力を伸ばした児童生徒の割合や伸びたレベルがどのように変化しているのか経年で把握することができます。

学力分析（上位・下位 児童生徒の割合）



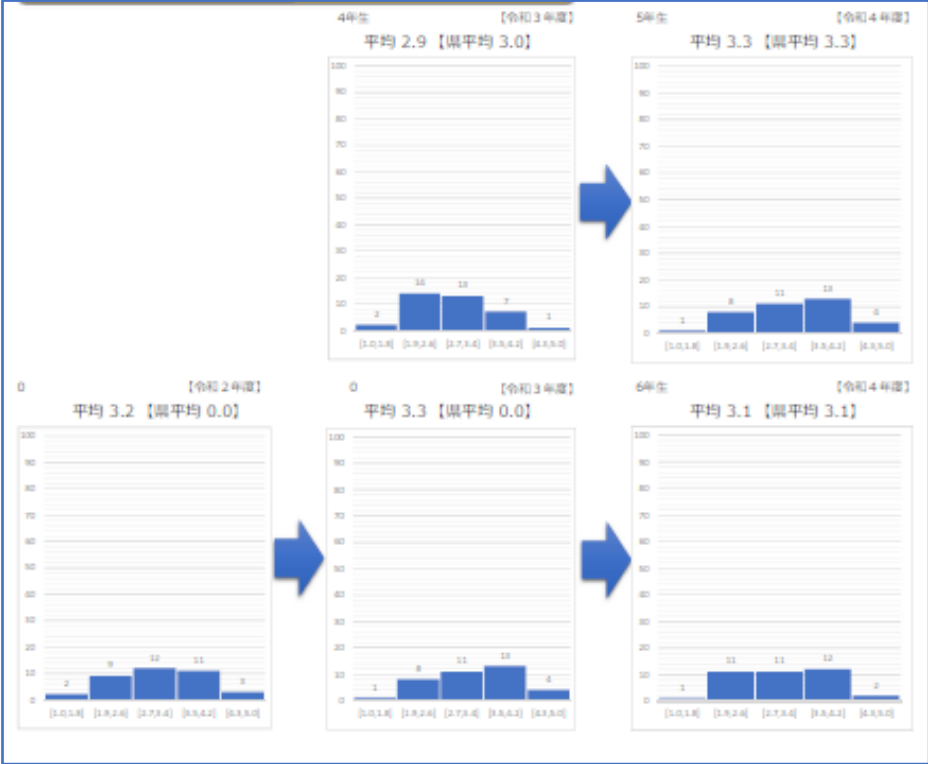
学力レベルについて、鳥取県内の上位10%、25%、下位10%、25%の生徒がどのような割合でいるのかについて、経年で把握することができます。あくまで相対的な評価となりますが、学校の教育効果についての指標とすることもできます。また、どの層が多いのかを確認することで授業づくりの参考にすることもできます。

3 分析シート(学校用3)について

分析シート（学校用3）の特徴

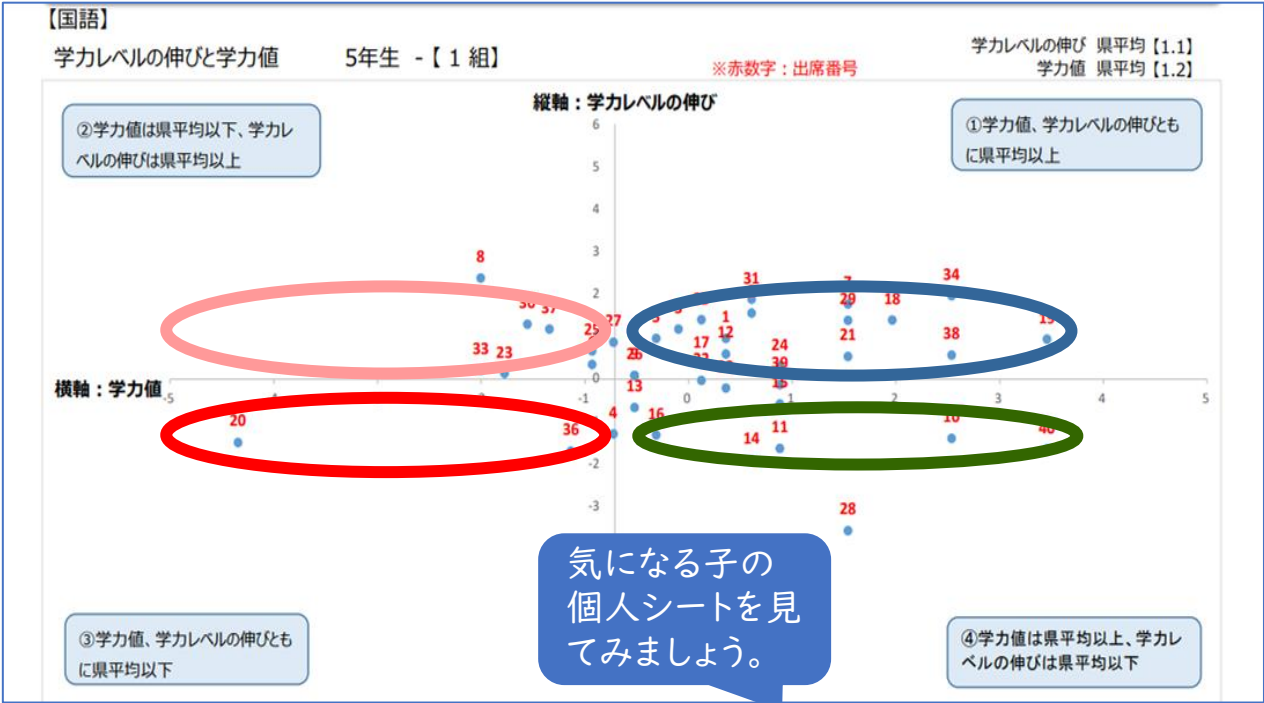
- 各学年の自己効力感について、階級ごとの人数をヒストグラムで見える化。
- 縦軸に「学力の伸び」、横軸に「学力値」、原点を県平均に設定して、個人の状況を座標平面上にプロット。県平均を中心に、4つの範囲に分けて分析することが可能。

非認知能力 【自己効力感の推移】



自己効力感について、階級ごとの人数をヒストグラムで表示しています。同一集団の経年変化を把握することができます。

学習状況 「学力の伸びと学力値」



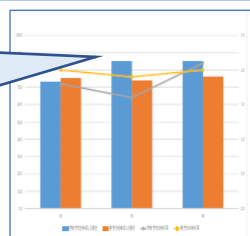
縦軸に「学力の伸び」、横軸に「学力値」、原点を県平均に設定して、個人の状況を座標平面上に出席番号とともにプロットしています。

- ・学力レベルが高く伸びが大きい子
- ・学力レベルは高いが、伸びが小さい子
- ・学力レベルは低いが、伸びが大きい子
- ・学力レベルが低く、伸びが小さい子

分析シート(学校用1、2、3)の活用

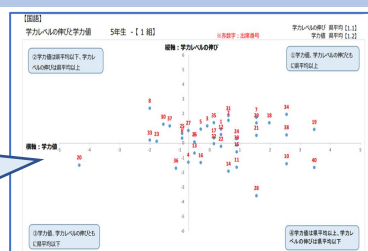
自校の教育成果の根拠として活用

伸ばした児童生徒の割合が大きくなってきている。
学校の実践として行っている、〇〇タイムの成果が
出ているかもしれない。より充実させよう!



校内研究のテーマ設定の根拠資料として活用

学力値が高い児童生徒が多いけれど、伸
びが小さい児童生徒もいるな。どの層の
児童生徒も伸ばすことを次年度の校内研
究のテーマにしていこう!



校内研究成果の指標として活用

算数を校内研究のテーマにしているから、上位
層・下位層の割合と伸ばした児童生徒の割合
を研究の成果指標の1つとして活用しよう!



4 分析シート活用のコツ

- 1 学校に必要なデータを選択して活用してください。
- 2 解釈や取組に正解はありません。だからこそ、チームで知恵を出し合ってデータを活用してください。
- 3 小中連携の資料の一つとして活用してください。お互いの様子を確認するだけでも新たな発見があるはずです。
- 4 小学校では、4、5、6年生だけの取組とならないように、学校全体で取り組むことが大切です。
- 5 中学校では、国語と数学だけの取組とならないように、学校や学年全体で進めることが大切です。